海外派遣交流事業の再開と成功にあたって

室蘭市中学生海外交流事業実行委員会
会長　笹　森　恭　之
（室蘭市立翔陽中学校長）

この約４年間、世界中が分断され、人と人との交流や身近な人との関わりさえもが途絶えそうになったコロナ禍でした。当然のことながら、ノックスビル市への中学生海外派遣交流事業も中断を余儀なくされました。

まだ見ぬ世界（国際交流）への憧れやグローバル感覚の柔軟性が「今が旬」である中学生たちにとっての貴重な体験機会が失われたことは残念でなりませんでしたが、今年度、ようやく９名の中学生を交流派遣できましたことは喜びに堪えません。

渡米１週間前に開催された出発式では、派遣される生徒一人一人が、今回の派遣での抱負や目標、そして派遣事業再開への感謝の言葉を堂々と立派に語る姿に胸が熱くなりました。同時に派遣再開に相応しい室蘭市の代表生徒たちであることを確信しました。

帰国後、ホストファミリーとの初対面の時の気持ちを「いざ対面すると心臓が激しく鳴り、頭が真っ白になり用意していた言葉が消えた」「不安と緊張で頭の中がいっぱいになった」「緊張と不安で潰れそうだった」と話していました。そんな生徒たちが５日間のホームステイを終え、空港でのお別れの場面での心境や様子を「再会を約束し、熱いハグを交わし」「涙が滝のように溢れて」「我慢していた涙が一気に込み上げて止まらない」「ハグしたときには、お別れを実感して目が潤んだ」「感謝と寂しさで胸が張り裂けそう」と表現していたことからも、この（おまけの１日を含めた）９日間は、生徒たちにとって何ものにも代えがたい充実した時間であったことを想像させます。

ノックスビルの街並みを目に焼き付け、人々の温かさ、優しさを肌で感じ、忘れ得ぬ思い出を心に刻み、心の栄養をたくさん蓄えてきた生徒たちのこれからの人生がさらに豊かになることが、この事業の成果であり、成功となるのではないかと思います。そして、そうあることを切に願っています。

結びになりますが、室蘭市をはじめ、「ノックスビルの会」、ご家族の皆様、ご引率の方々、そしてご支援、ご協力を賜りました多くの関係各位に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。